

2006年07月10日(月)

浴衣っていいな。中学生が着方学ぶ



宇都宮市の陽東中学校で10日、生徒たちがゆかたの着方を学ぶ教室が開かれた。このゆかたの着方教室は、着物文化の良さを伝えようと、今年1月に着物学校や呉服店の関係者などで設立した特定非営利法人・和装教育国民推進会議の栃木支部が、着物文化教育のモデル授業として、初めて開いた。最近では、家庭科や総合的な学習の時間に着物を扱う授業を取り入れる中学校が全国的に出てきているという。参加した生徒たちは、ふだん着慣れている洋服とは勝手が違い苦戦していたが、着付け教室の先生の指導を受けてみんな上手に着ることができた。ゆかたを着終えた生徒たちは、うれしそうな様子で友達と見比べてみたり、自分の姿を鏡に映してみたりして、着物の良さに触れていた。

2006年07月10日(月)

高校生がかんぴょうむきを体験



県内有数のかんぴょうの産地・壬生町で10日、高校生たちがふくべの皮むきなどを体験した。栃木県は、全国一のかんぴょうの生産地だが、最近は安い中国産に押され生産者を取り巻く環境は、厳しさを増している。そこで、壬生町の乾物卸売り問屋・まるつねが、若い人たちにかんぴょうの生産現場を見てもらい、日本1の特産品への理解を深めてもらおうと初めて、体験学習を企画した。参加したのは、那須拓陽高校の生活文化科の3年生38人で、生徒たちは、重さ7キロほどのユウガオの皮むきを、かんぴょう作り60年のベテラン・須釜一雄さんの指導で体験した。最初は、皮むきに戸惑っていた生徒たちも、専用のカッターを上手に使って勢い良く皮をむいていた。まるつねでは、那須拓陽の生徒たちとかんぴょうを材料にした40品目のレシピを共同で作っていて、これらのレシピをホームページで公開している。

2006年07月10日(月)

塩原温泉に大型足湯施設「湯っ歩の里」



那須塩原市の塩原温泉に8月にオープンする大型の足湯施設「湯っ歩の里」が10日、関係者に事前公開された。「湯っ歩の里」は温泉が発見されてから、今年で1200年を迎える塩原温泉の記念事業の目玉施設。国内最大級の足湯で、およそ6千平方メートルの敷地内に延長60メートルの「足湯の回廊」が整備されている。足湯の回廊は幅1.5メートルで中に入って歩くことができ、毎分100リットルの源泉が掛け流しになっている。浴槽の底にはさまざまな大きさの石がはめ込まれ、足のツボを刺激しながら足湯を楽しむことができる。このほか、源泉から直接引いた温泉を飲むことができるコーナーや、30分に一度吹き上がる間欠泉、温泉の滝などの演出もある。この湯っ歩の里は8月1日にオープンするが、8月6日までは入場無料。